



檀信徒の皆さんと本堂の前で記念撮影

願満

復刊第二十八号

2016年 12月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766

お会式法要

第七百三十五回お会式法要に七十人

身延別院のお会式が十一月三日に催されました。当院の檀信徒約七十人が本堂に参列し、日蓮聖人に報恩感謝のお題目を唱え、ご遺徳をしのびました。

お会式は、日蓮聖人がおなくなりになられた十月十三日の御命日を中心に、全国各地の日蓮宗寺院、教会、結社で行われる報恩感謝の法要です。ご入滅の地・東京の池上本門寺や山梨の総本山身延山久遠寺で行われる法要が広く知られています。日蓮聖人の教えに出会えた喜びをかみしめ、お祖師さまへの報恩を捧げる一日でもあり、今年で七百三十五回を数えました。

身延別院では毎年十一月三日・文化の日にお会式を行っています。たくさんの方の檀信徒さんを迎えるために、お寺ではお会式に向けて万灯を準備したり、ピンクや白の薄紙で作った花を本堂内に飾ったりと、檀信徒さんの協力で会場づくりを進めてきました。

法要は午後二時から本堂で営まれ、藤井住職が日蓮聖人の教えに対して感謝の言葉を述べました。参列者は法華経のお自我偈などを誦誦し、お題目を唱えました。今年はお稚児さん行列が、参加人数が少なかつたこともあって中止となり、参列者全員に対して御祈禱が行われました。当院の藤井教祥副住職をはじめとする八人の修法師が、参列者一人一人の身体健全、所願成就などを祈念し、木剣をふるいました。法要後は、地下ホールでご供養が振舞われました。

お会式にたくさんの方の奉納・ご供養をして下さった檀信徒の皆さま、本当にありがとうございます。

(大山)

御首題を いただく旅

第二十八回 秋田県横手市・妙晴寺

逆三猿のお寺



妙晴寺の本堂

各地の日蓮宗のお寺を参拝していて感じるのは、とても庶民的ということ。お寺はかつて地域の中心的な存在でしたから、地域の人々の声や願いがたくさん寄せられました。それらを反映したのが境内にあるお堂や石造物、彫刻なのだろうと私は思っています。

日蓮宗のお寺の場合は特にそれが多彩です。七

面堂、鬼子母神堂、稲荷神社、三十番神堂、題目塔…。私たちの身延別院にも題目供養塔、浄行菩薩、光明稲荷大明神、油かけ大黒天神、鰻供養塔など、人々の祈りの結晶とも言えるべきものがいくつもあります。

そんなことを思い浮かべていたら昨年夏に参拝した秋田県横手市の妙晴寺のことが思い出されました。ここは「逆三猿のお寺」で知られています。「逆三猿」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか？

通常「三猿」と言えば、三匹の猿が両手でそれぞれ目、口、耳を隠しているものです。「見ざる、言わざる、聞かざる」という知恵を示していると言われていました。栃木・日光東照宮の三猿は特に有名ですし、道ばたの庚申塔に刻まれているのをよく目にします。では、「逆三猿」とは何でしょうか？

実は、妙晴寺が「逆三猿のお寺」ということを、私は全く知らずに参拝しました。

「こちらをご覧ください」。ご住職が指で示した本堂正面の庇の下に三匹の猿が彫刻されています。一匹はかつと目を見開き、一匹は大きく口を開け、一匹は耳に人差し指をあてています。見るべきものは正しく見る、言うべきことは正しく言う、聞くべきものは正しく聞く——そんなこと



見ざる、言わざる、聞かざるに対応する逆三猿

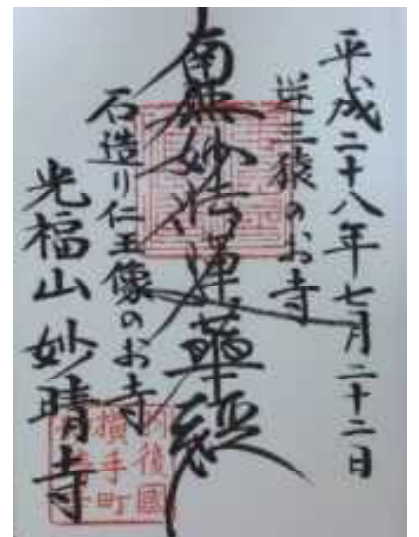
を伝えているようです。

日蓮宗寺院大鑑によれば妙晴寺は明治二十七年(一八九四年)十月五日の創立。明治時代も半ばに入り、時代の風潮はもはや江戸時代のような「見ざる、言わざる、聞かざる」ではなく、庶民は目、耳、口を使って、物事を正しく発信しているという風潮になっていたのかもしれない。

「本堂新築の際、そのような考えのお寺であることを願って、彫刻師が三匹の猿を彫ったのでしよう。だから『逆三猿』と呼んでいるのです」とご住職は説明してくれました。

ほかにも妙晴寺には、地元産の石を刻んだ仁王像がお寺の入り口にありました。とても親しみを感ずる仁王像です。長年の風雨にさらされ、破損の恐れが出てきたために、最近になってそれぞれ小屋で覆ったのだそうです。今も庶民の信仰心に支えられているのだと感じました。横手市は「かまくら」で知られるように、日本有数の豪雪地帯。今頃は、逆三猿も仁王像も積雪に見舞われているのだろうか、と気になってしまいました。

(平山徹・新聞記者)



副住職活躍中!



龍宮寺本堂前で記念撮影する一行

インド・ナグプール龍宮寺十七周年法要出仕
 十一月十三日〜十八日まで、全国日蓮宗青年会会長として副住職がインド中西部のナグプール市を訪れ、日蓮宗寺院妙海山・龍宮寺の立正平和祈願法要に参加しました。
 龍宮寺は日蓮宗の篤信者である小川法子女史とインド人の熱心な仏教徒によって十七年前に建立されました。
 一行は十三日に成田を出発しバンコク経由でインドのバンガロールに到着、十四日にナグプールに移動し龍宮寺の法要を厳修しました。境内は現地の人々であふれ、数えきれないほどでした。法要には二十名ほどの僧侶が参加し盛大に平和祈念式典が執り行われました。



仏歯寺内陣入口(写真上・右)
 ダンプラの石窟寺院(写真上・左)

スリランカでは世界遺産聖地キャンディにある仏歯寺や、世界遺産のシギリヤロックを観光し、十八日に帰国しました。今回のインド・スリランカ旅行には身延別院青年会から加藤綾乃さん、藤井葵さんも参加しました。

スリランカの信徒宅にて祈念法要

インド龍宮寺法要に続いて、一行は十五日よりスリランカに移動し現地の信徒宅にて祈念法要を厳修致しました。法要には約五十人が集まり賑やかなものとなりました。

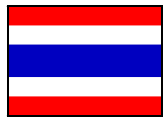
法要では参加された信徒の皆さまの先祖供養、そして安寧を祈願し、またインド洋津波で失われた四万人を越すスリランカの人々のご供養をしました。



スリランカ信徒宅



スリランカ信徒宅にて祈念法要



祈りの輪を世界に！



慰霊碑の前に記念撮影

慰霊碑前で平和祈願修法
(写真右)

先代日光上人が建立した
慰霊碑
(写真下・右)

副住職は修法導師として
参加
(写真下・左)



インド洋津波犠牲者第十三回忌慰霊追悼法要に参加

十一月五日に副住職は全国日蓮宗青年会会長として、日蓮宗及び全日本仏教界ら諸団体とともにタイ、プーケット島カマラビーチ内に建立されている慰霊碑を前にインド洋津波犠牲者第十三回忌慰霊追悼法要を営みました。

二〇〇四年年一月二六日に発生したスマトラ島沖地震による大津波は、インドネシア島アチェを中心にインド洋沿いの地域に甚大な被害を及ぼし、日本人を含む約二十二万人の尊い命が失われました。

この慰霊祭はプーケット日本人会（NPO法人プラジャ）が主体となつて毎年十二月二十六日に執り行われてきましたが、昨年「世界津波の日」が制定されてから十一月五日に変更となりました。午後四時から始まった式典では、日本人遺族、また現地の方々約百五十名が献花し、犠牲者を偲びました。

またこの慰霊碑は身延別院先代の藤井日光上人が全日本仏教会会長の時に建立したもので、今回副住職が現地にて追悼法要を営むことになり深い縁を感じました。

寺の動き

切り絵体験イベントを開催



熱心に百鬼丸さんの説明を聞く参加者の皆さん

身延別院の地下ホールで十二月十八日、「スパー切り絵職人・百鬼丸さんの切り絵教室」が開かれました。百鬼丸さんは、切り絵作家として制作数日本一、カバー画を手掛けた単行本・文庫本八百冊以上、週刊誌・新聞小説挿絵連載日本一の、日本屈指の切り絵作家です。

募集枠は八名とわずかでしたが、有名作家に直接指導してもらえるとあって、少人数開催ながらも熱心な参加者が集まりました。当日は、各

自が下絵から描いた魚や果物、動物などを切り絵にし、二時間の間に見事な作品が完成しました。

プロの切り絵作家のテクニクを目の当たりにした参加者の皆さんは、夢中でカッターを動かし、慌ただしい日常を忘れて自由に切り絵を楽しんでいました。当院では今後も皆さんに楽しんでいただけるこうしたイベントを積極的に企画していきます。

岩手法華寺団参

岩手県遠野市の法華寺(住職・阿部是秀上人)の檀信徒の皆さん三十一人が、十二月一日、当院を参拝されました。毎年この時期に参拝いただいているものです。当院と法華寺は縁



本堂にて法華寺檀信徒の皆さんと

が深く、住職の阿部上人は当院初代住職の藤井日静上人が身延山法主だったころ、学生として隨身をされていました。また、法華寺の開山は当院初代の藤井日静上人です。

一行はこの日の早朝に当院に到着しました。地下ホールで休憩し、朝食をとった後、本堂で願満日蓮大菩薩のお開帳を受け、当院初代住職一乘院日静上人、二世妙道院日光上人のご回向を行いました。

納めの大黒天祭

身延別院の納めの大黒天祭が、十二月八日午後二時から本堂にて執り行われました。大黒様は「子孫繁栄」「家内安全」「商売繁盛」などを司る福の神です。



黒豆の煮汁とお酒で大黒様の一年の汚れを落としお清めします

当院では皆様のご家庭に大黒様をお授けいたします。新年を迎え、心新たに大黒様をお祀りしましょう。年六回甲子に執り行われる大黒天祭には、是非ともご家庭の大黒様をお持ちになつてお参りください。

大黒天枡入り (大) 金、七万円

(中) 金、伍万円

(小) 金、参万円

*大黒様の書入れ、開眼料も含まます

お会式のお花作り奉仕



お会式の花を作る檀信徒の皆さん

身延別院の檀信徒の皆さんが、十月二十、二十一日、本堂地下ホールでお会式の花作りに取り組みました。

お会式法要では毎年、お会式桜を模して、ピンクと白の薄紙で作ったたくさんのお花を本堂の内外に飾りつけます。その花をみんなの手分けして作り、竹や万灯にくくりつける作業です。二日間で作った花は、ピンクの花が約二千個、白が約四百個、合計で約二千四百個でした。お手伝いいただいたのは以下の皆さんです。

阿久津喜美子、阿久津一美、足利洋子、石渡日出子、奥村雪江、加藤和恵、加藤綾乃、小林聰子、酒匂三千子、佐竹美智子、柴野修一郎、高橋園枝、寺久保トシ子、鳥居優、中田しずえ、林好江、山口彌恵、藤井孝子、藤井麻未(敬称略)。ありがとうございました。

秋季彼岸法要

身延別院の秋季彼岸会施餓鬼法要が九月二十六日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が本堂に集い、提婆達多品などのお経を読みました。ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々の塔婆をご供養しました。その後に住職の法話があり、終了後地下ホールでご供養がありました。

豆入れ奉仕のお願い

来年の追儺式(節分の豆まき)で用いる豆の袋詰め作業を、一月二十三日(月)、二十四日(火)に行います。七センチ四方ほどの小さなビニールの袋に、さかづきを使って豆を詰め、

袋の口を折りたたみ、ホチキスで留めていく作業です。一時間でも二時間でも、都合のつく時間がかまいません。お手伝いいただける方、今回もどうぞよろしくお願ひします。

べつたら市の出店見送り

毎年十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べつたら市」に、今年は身延別院青年会が出店すると願満二十七号で伝えましたが、諸般の事情により、出店を見送りました。楽しみにされていた檀信徒の皆さん、次回にご期待ください。

今後の予定

一月 一日(日)〜三日(火)

新年初詣、終日御開帳

七日(土)

中山法華経寺荒行堂参拝・新年御祈禱

厄除け祖師本山堀之内妙法寺参拝・御開帳

十四日(土)

初十三日講(鏡開き) 法要・法話

午後一時より

二月 三日(金) 節分会追儺式(豆まき)

午後一時より

あれや
こねや

千箇寺参り



千箇寺参り(せんがじまいり)とは、『日蓮宗事典』の一節によると、こうあります。「日蓮宗に独特な寺院参詣の修行方法で、江戸時代の中頃から盛んになった。お題目やお曼荼羅を背中に書いた清浄衣を着、手にはウチワ太鼓を持って、南無妙法蓮華経とお題目を唱えながら日蓮宗の寺から寺へと辿る。寺へ到着すると、本堂の前で簡単な回向をした上で、庫裡に行つて住職から御首題と寺名を頂き、その寺の御朱印をおしてもらう。こうして日蓮宗寺院の千カ寺を回つて修行するので、これを「千箇寺参り」といい、修行者を「せんが寺」と呼ぶ。」

最近では御朱印ブームが起き、若い人の間でも宗旨に関わらず朱印帳を携えてあちこちの寺社仏閣を訪ねる人が増えていますが、本来の千箇寺参りとは日蓮宗の信者が日蓮宗の寺だけをお参りするものです。近年の本来の意味での千箇寺参りの先駆者はこの寺報『願満』の編集を手伝っていただき、かつ千箇寺参りの紀行文を連載されている読売新聞の平山徹さんでしょう。平山さんは千箇寺はとつくに成満し、現在は一七八五箇寺に達したところとのことです。

つい最近、平山徹さんから影響を受けて千箇寺参りを始められて、成満された北九州の植野平次様から以下のようなお手紙を頂戴しました。ご本人の許可をいただいてご紹介します。

「合掌 残暑厳しき折、貴御寺院様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。ご縁をいただいでの日蓮宗千ヶ寺参りも「一〇八七ヶ寺の御寺院」に参拝させていただきます、平成二十八年八月二十五日、総本山身延山久遠寺様にて成満の

御奉告をさせていただきました。誠に有り難いことです。

この日蓮宗千ヶ寺参りは、私が八十才を迎える頃、これまでの健康で幸な人生に感謝し、これからは、この体を使って全国に所在する日蓮宗の御寺院にお参りし、先祖の供養と更には自分自身の健康をお願いしたいという強い思いからであります。

日蓮宗にお世話になってまだ日浅い私にはその方法が分らず落ち着かない日々ではありましたが、ある日、日蓮宗新聞で「千ヶ寺参り」を知り、お上人様にご相談いたしました。準備を整えて最初の寺院様には、良き日を選び大雄寺様(北九州市)にお願ひし、緊張に包まれながら参拝を済ませ心から安心したことをはつきりと覚えています。幾つかの屈折、経験を重ね「成満日」を平成二十八年四月十三日(米寿誕生日)と定め順調に参拝を重ねてまいりました。

ところが昨年九月「右腕の一部に自由を失う」病になりました。

過ぎたる日々を思い浮べりハビりに努め医師の指導の下「成満日」を八月二十五日に変更し、心も新たに参拝を再開しました。思えば先日は五年前の忘れられない一日で「成満日」となり心から感激し…記念日となりました。

参拝は総てが私のペースで「身延別院様 二十八年五月十八日午後二時頃にお参りさせていただき、本堂にお詣りし、お勉(ママ)をさせて下さい」とお願ひし御寺院様にはご迷惑をおかけしたのではないかと思つています。改めてこの紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

明日からは短い余生が始まります。この貴い経験と思ひ出を胸に尚一層の精進に励み人生の終焉を迎えたいと願つています。

なお、今後共ご指導をよろしくお願ひ申し上げお礼の言葉に代えさせていただきます。この度は誠に有り難うございました。

再掌

平成二十八年八月吉日

真浄寺(北九州市) 一檀徒 植野平次

身延別院様

「ご高齢で、しかも病いから再起されての千箇寺参りの成満、まことに日蓮宗信徒の龜鑑です。植野様は都合三回に亘つて当院にお参りされました。これからの一層のご健勝とご信心をお祈り致します。